



みんなで学ぼう

身近な病気とケガの手当て

～子どものケガへの対処法～

【代表的な子どものケガ】

- ① すり傷
- ② 切り傷
- ③ やけど
- ④ ねんざ、骨折
- ⑤ 肘内障(ちゅうないしょう)



① すり傷

子どもの場合、走っていて転び、ヒザやヒジをすりむくことが多い。

また、顔から先に地面に落ちた場合は、大きなケガにつながることもある。

〈処置の仕方〉基本的に『きれいな水でよく洗い、汚れを落とす』ことが大切。

流水で傷口についた砂や泥などを流し、必要であれば、ばんそうこうなどを貼る。

傷を早く治すためには、滲出液(しんしゅつえき)で傷が保護されている状態を保つと効果的。

→『湿潤療法』という。

傷を乾燥させないためには、創傷被覆材やラップ、フィルム材などで覆うと良い。

※そのままにしておく中で感染を起こす可能性があるため、被覆材の表面に滲出液が染み出してきたら交換する。

② 切り傷

子どもは紙のふちで指を切ることや、ガラスや陶器の破片を触って手指を切ることがある。

〈処置の仕方〉ここで重要なのは『止血と感染の防止』である。

まず、流水で傷口をよく洗い、清潔な布やガーゼ等で圧迫止血をする。

※深く大きな傷の場合

傷口が大きい場合、なかなか血が止まらない場合には、圧迫止血をした状態で病院へ行く。

また、傷口が熱をもっている、腫れてきたという時は、消毒が不十分で感染を起こす場合や、ガラスなどの破片が残っている場合などが考えられるため、すみやかに病院へ行く。

③ やけど

子どもは思わぬ原因で、やけどをすることがよくある。

例…炊飯器や電気ポットの湯気 電気毛布や湯たんぽによる低温やけど

〈処置の仕方〉 水で、最低でも **10分以上**冷やす。服を着ていてもその上から水をかけ、冷えてから脱がす。(やけどの進行を遅らせることができるが、水量が強いと皮膚がはがれてしまうので注意) 痛みを伴う時、水疱ができた時は、すみやかに病院へ行く。

④ 骨折、ねんざ

子どもは走り回るのによく転ぶ。足をひねることや、転んだ時に手をつけてケガをすることも多くある。ひねった部分の腫れや内出血、痛がって泣く時、力が入らない時、向きがおかしい時は、骨折やねんざが疑われるので、**応急処置**をして病院へ行く。

〈応急処置〉 → 『RICE 処置』

RICE とは？

Rest…安静に(患部をテーピングなどで固定して動かないようにする)

Ice…冷やす (保冷剤や氷を使用して患部を冷やして炎症をおさえる)

Compression…圧迫する (内出血や腫れを防ぐため、圧迫してテーピング)

Elevation…患部を心臓よりも高く上げる(腫れの予防や悪化を防ぐため)

⑤ 肘内障 (ちゅうないしょう)

俗にいう「肘 (ヒジ) が抜けた」状態。親が子どもの手を引っ張った時や、子どもがヒジを打った後に起こりやすい。

〈症状〉

- ・泣く
- ・腕は動かないが指は動く。
- ・腕を使わない、肩を上げない。(物を持つとしない)

〈治し方〉

医師による整復を行う。(徒手整復術)

〈注意事項〉

しばらくは子どもの手を引っ張ったり、ひねったりはしないようにする。

小児肘内障は繰り返しやすい、再発しやすい。特に4・5日間は再発の可能性が最も高い。

※1歳から6歳くらいの子どもの多い。

